

シーズ名	肝疾患の予防に関する分析疫学研究
ンーハ油	

所属·役職·氏名

公衆衛生学・准教授・大藤 さとこ(OHFUJI, Satoko)

**〈要旨〉** これまで、わが国における肝臓がんの主要な原因は C 型肝炎ウイルス感染でした。しかし、近年の抗ウイルス治療の開発により C 型肝炎のウイルス除去率は 90%以上にまで改善し、肝臓がんの原因は肝炎ウイルス感染から飲酒・喫煙・肥満・糖尿病などの生活習慣にシフトしつつあります。一方で、C 型肝炎ウイルス除去後でも肝臓がんを発生する者が存在することから、ウイルス除去後の生活習慣の関与も疑われています。そこで、私たちは、分析疫学手法を用いて、肝疾患の予後と関連する生活習慣を調査しています。本調査の結果は産業開発に応用することが可能です。また、本調査手法は様々な疾患の予後因子探索研究に応用することが可能です。

#### <研究シーズ説明>

- \* 医学研究科・肝胆膵内科、肝胆膵外科と共同で、抗ウイルス療法により肝炎ウイルスが排除された方を対象 に、予後(肝硬変・肝臓がんへの進展、肝機能異常など)と関連する生活習慣・食習慣を調査
- \* 生活習慣・食習慣について抗ウイルス治療前後の情報を収集しているため、生活習慣の変化が予後に与える影響を検討することが可能
- \* 食習慣については摂取栄養素も算出して検討中

## <アピールポイント>

- \* これまでに、医学研究科・肝胆膵内科と共同で、C型肝炎の方を対象とした疫学調査を実施
  - ⇒「毎日のコーヒー摂取」が「ALT 安定化」や「肝がんのリスク低下」に有用であることを報告
  - ⇒「夜食摂取」が「肝がんのリスク低下」に有用であることを報告
  - ⇒「飲酒習慣」と「肝がんリスク」との関連を報告
- \* 分析疫学手法に則り、実施しているため、研究結果の妥当性・信頼性が高い

#### <利用・用途・応用分野>

- \* 研究結果は、以下の利用、応用が可能です。
  - ▶ 医療現場において、

「食習慣などの生活習慣改善を積極的に推奨する根拠」となります。

▶ 臨床科学の分野では、

「予後改善に有用な栄養素」を産業開発に応用することも可能です。 「本研究で用いた分析疫学手法」は様々な分野の研究に応用することが可能です。

## <知的財産権・論文・学会発表など>

- 1. Effect of caffeine-containing beverage consumption on serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C virus infection: a hospital-based cohort study. Plos One 8: e83382, 2013.
- 2. Does a late evening meal reduce the risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic hepatitis C? Hepatol Res. 38: 860–868, 2008.
- 3. Coffee consumption and reduced risk of hepatocellular carcinoma among patients with chronic type C liver disease: A case-control study. Hepatol Res 36: 201-208, 2006.

# <関連するURL>

http://www.med.osaka-cu.ac.jp/departments/toshi-publichealth.shtml http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2013/2v91vf

# <他分野に求めるニーズ> 疾患の発生メカニズム

キーワード |肝疾患、予防、疫学、生活習慣、食習慣、栄養